

リモート会議事始め

志村 良知

感染力が強く、誰にも免疫が無く、人を死に至らしめる可能性がある COVID-19 というウィルスの恐怖が世界を覆い、人と人が会うことが事実上禁じられた 2020 年の春、我が企業 OB ペンクラブ会員も集まって話すという最大の楽しみを失った。

ホームページへの投稿は可能だし、会員専用サイトのチャット欄では忌憚のない意見交換もできる。しかし、会いたい。自然発生的にリモートでせめて顔を見ながら、という案が電話や電子メールの中で交わされ、Zoom とかいうシステムで試してみようという事になった。

会員の PC との関わり具合やインターネットの接続環境は様々である。できるのか、という懸念はあったが、ともかくやってみようと、数人でのリモート会議兼飲み会から始めた。案ずるより産むが易し、みんなに広げよう Zoom の輪。会を重ね、呼びかけた会員たちは続々 Zoom に参加してきた。

ホームページの会員専用サイトを併用する工夫で、2020年5月28日、実に22人が参加して、アフターのリモート飲み会を含めると6時間の長丁場『第一回 Zoom 何でも書こう会』が開かれた。分割の画面に見える皆さんの顔は小さいけれど、とにかく顔を合わせてワイワイやるのは楽しかった。その後、各勉強会、月例会も Zoom 開催が当たり前になり、月例会ではオペラファンの会員の選曲・解説でアリア名演鑑賞会まで開いた。

9月に緊急事態が解除されると、対面の会場と Zoom を併用するハイブリッド方式が提唱された。ハイブリッドになると機材の工夫が必要になる。会場で借りられるものプラス最低の機材の購入で、ハイブリッド会議「のようなもの」、を開く方法をひねり出した。

その後、外出自粛となると Zoom のみ、緩和されるとハイブリッドと、一度も休会することなく続けている。

Zoom では、外出がままならない会員や遠隔地の会員が参加して顔を見せ合うことができる。ハイブリッド会議という方式は、これからの超高齢社会の懇親同好クラブには必須になっていくであろう。